

南アフリカ リンゴとナシの輸出が大幅に減少

EUROFRUIT 2023年7月10日

今シーズンの厳しい条件は、南アフリカのリンゴとナシの輸出に打撃を与えた。「大荒れ」の出荷シーズンと言われる状況で、南アフリカのリンゴとナシの業界は、輸出量が昨シーズンよりも少なくなることを確認した。

リンゴの輸出量は11%、ナシの輸出量は20%、昨年より減少すると見られる。出荷シーズン初期の降雹は多くの産地で大きな被害をもたらし、輸出量の減少の主な要因となった。

果樹協会(Hortgro)が発表した今シーズン全般の取りまとめの中で、セレスフルーツグローアーズ(CFG)社の生産者サービス部長であるフレデリック・オデンダール氏は、「南アフリカで最も古い果実梱包会社の1つであるCFG社は、12月と1月に作物の約30%を失った」と説明している。

降雹は他の地域にも打撃を与え、ラングルーフ地域のデュトワグリ社のヨハン・コツェ社長は、降雹被害をこの地域の「悪夢」と表現した。

これまでのところ、今シーズンの輸出市場向けのリンゴの出荷量は、昨年の4,526万箱より約500万箱少ない、4,016万箱と推定され、ナシの輸出量は昨年の2,120万箱から1,690万箱に減少すると予想される。

セレス社のリンゴとナシの輸出量は全体より大きく影響を受けたようである。前向きな点としては、第25週(6月下旬)までのロイヤルガラとガラの輸出量は、前年同期と比較して7%多い。

英国とヨーロッパへのリンゴの輸出量はそれぞれ26%と18%減少し、ロシア向けは53%減少した一方、極東、米国、カナダ向けの輸出量は大幅に増加した。

ナシの輸出はほとんどの市場向けで減少し、中でもEU向けの輸出量は今シーズンこれまでのところ16%の顕著な減少を示している。

執筆者: フレッド・マインチェス

ニュージーランド ゼスプリが赤肉キウイの新品種の試験開始へ

FreshPlaza 2023年7月11日

ゼスプリインターナショナル(Zespri International)社ではこの冬、新しい赤肉系キウイフルーツ栽培品種の商業化前の栽培試験を開始する準備が整った。同社のブルース・キャメロン会長は、輸出市場でルビーレッドの需要が高かったため、同社としてはその出荷シーズンを延長したいと述べた。

キャメロン氏は、今後さらに多くのルビーレッドの園地が成園化して来るため、同社は2027/28年度までに約690万箱の出荷を見込んでいると述べ、「別の赤肉系品種を商業化前の試験段階に移行させるという決定は、出荷シーズンを通してゼスプリルビーレッドキウイフルーツの供給を拡大し、生産者により多くの価値を還元する方法を模索する弊社の取組みの一部である。商業化前の試験に入る新しい品種は、レッド19(ルビーレッドとして販売されている)とは出荷のタイミングが異なると予想され、補完的な品種になる」と語った。

キャメロン氏によると、新しい品種が商品化されれば、レッド19と合わせて、増大する需要に対応し、赤肉系の果実の販売期間を延長するのに役立つ。

出典: stuff.co.nz